



▲商店街アートプラン(プロジェクト) / 井上 典子 教授



▲演劇ワークショップ(表現コミュニケーション) / 山本 直子 講師



▲交渉学入門(表現コミュニケーション) / 田上 正範 准教授



▲追大周辺を歩き、見て、聞いて、考える(教養ゼミ) / 南出 眞助 教授



まず、「①基礎科目」では、大
学での学びや希望する進路にお
いて、核となる基礎的知識や汎
用的技能、表現力を育成してい
く。次に「②教養科目」では、さ
ざまな学問分野に関する知識・
理解を深め、多角的・相対的な視

①「学ぶ力」を養う基礎科目
②「考える力」を養う教養科目
③「生きる力」を養うキャリア科目
④ 自校教育やコース科目等から
なる総合科目

追手門の学びは、すべての学部
教育の土台となる学力や教養を
身につけるための「基礎教育科目
(共通科目)」と、専門性の高い知
識やスキルを養う「学科科目」の
2つの柱を軸に展開されていく。
そのうちの「基礎教育科目」は、
学部を問わず、本学へ入学してき
たすべての学生が標準的に身につ
けるべき内容レベル。追大ス
タndaードを培うために行われ
ており、次の4つの科目群で編成
されている。

追大スタンダードを すべての学生に

また授業形態も、より実践的
に学べる工夫が施されている。そ
れが「ゼミナール」だ。すべての科
目群に少人数型・双方向型・参加
体験型科目が配されており、主
体的な学習や積極的なコミュニ
ケーション、相互協力的なグル
ープワークの経験を重ねながら、社
会的スキルを養う場となっている。
次頁から紹介する3つの授業は、
いずれもゼミナール形式で、アク
ティブラーニング(双方向、参加
体験型の学習法)が採用されてい
るのが特長だ。ぜひ参考にして、こ
れからの科目履修に役立てよう。

自主性と協働力を
はぐくむ「ゼミナール」

点から物事を見ることのできる
幅広い教養を身につけていく。そ
して、「③キャリア科目」では、卒
業後の進路やそこへ至るまでの取
り組み・活動を見据え、自主性や
協働力、課題解決能力などの社
会的スキルを身につけていく。最
後に「④総合科目」では、自校の
アイデンティティを理解しながら、
国際交流やスポーツなど、大学や
地域を起点に広がる学びを修得
していく。



学 外 へ 出 か け る 社 会 人 と 対 話 す る 新 た な 視 野 を 身 に つ け る



進化する授業

追手門学院大学では、講義以外にも多彩な形式の授業が行われている。
表現コミュニケーション、プロジェクト、教養ゼミ…。
これらの授業では、皆が自分自身で考え、ディスカッションやプレゼンテーションを行い、
ときには大学の外に飛び出すことさえもある。
講義で得た知識を社会につなげる——「進化する授業」、その教室を覗いてみよう。

[Interview : 木下 由純 / 松岡 駿弥 / 八木 真奈美 / 壽崎 達也 / 酒井 智広]

PICK UP 【注目の科目】

■ 追手門UI*論~自校教育講座~
追手門学院大学について知るための科目。
開学からの歴史や変遷を知るとともに、学
生や教員、卒業生などをゲスト講師として招
き、それぞれの視点から語られる「追手門」
に触れることで、本学での学びの新たな意
義を見出す。

*University Identity

【基礎教育科目】 CURRICULUM (2015年度)			
●=科目 / ▼=分野			
総合科目	キャリア科目 (生きる力)	教養科目 (考える力)	基礎科目 (学ぶ力)
▼ 追大UI科目 ▼ スポーツキャリア科目 ▼ 国際交流科目	● キャリアデザイン論 ● プロジェクト入門 ● インターンシップ実習 ● キャリア形成論 ● 社会人の基礎 ● プロジェクト ● 表現コミュニケーション ● グローバルキャリア論 ● 教師力養成演習 ● 全学教職ゼミ ▼ リーダー養成コース科目	▼ 人文系 ▼ 社会系 ▼ 自然系 ▼ オープンゼミ	▼ 初年次科目 ▼ 外国語 ▼ 体育 ● 新入生演習 ● 日本語表現 ● 入門コンピュータ ● 教養ゼミ

※このほか(右記以外)にグローバルキャリアコース科
目があります。また、女性キャリアコース(仮称)科
目を予定しております。



教員 × 学生 | ここが面白い!

まず「茨木阪急本通商店街」の立地や歴史について知り、その後実際に商店街へ足を運んで現地調査に取り掛かります。ただ、「自由に調査しましょう」と言っても最初は戸惑うので、建築の先生を招いて建物や意匠装飾などについて解説いただきました。これを参考として、各自が自分なりの感性、視点での発見を促すところから始めました。



自分が気になるポイントを探して歩き、見つかったと写真に収めていきました。かわいい手作りの看板に、お店の方の思いが込められているなあと感じたり。普段の生活では、気付かず見過ごしていることが意外に多いんだと思いましたね。



経営学部
マーケティング学科 4年生
Satoko Uehara
上原 沙斗子さん

学生たちが「面白い」と思い惹きつけられるものを見てると、驚かされることも多く、新たな発見がありました。世代が変わると異なる感性もあれば、世代を超えて響くものもあるんだなあ...という気づきもありましたね。



振興組合をはじめ、商店街に関わる方々にも話を聞くことができました。喫茶店での取材は、特に印象に残っていますね。店内で使われている鏡が、閉店した美容室から譲り受けたものだったり、街が時代とともに移り変わっていきさまを伺えました。



経済学部 経済学科 3年生
Tatsuya Suzuki
壽崎 達也さん

4回にわたる調査をふまえて行ったディスカッションの内容をもとに、商店街と行政へ向けての意見提案書を策定し、提出しました。こういう実務作業も調査と同じくらい大切なので、粘り強く頑張ってほしいですね。自分たちの感じた事、考えた事をどのように提案すれば、行政や商店街の人たちに響くかを考える事も大切です。



この「プロジェクト」は、自分の目で見、生の声を聞くことができるので、時には思いもよらなかったことを学べるのが楽しいですね。将来は地元の行政で働きたいと思っているので、今学んでいることを活かしていきたいです。



地域創造学部
Noriko Inoue
井上 典子 教授

経済学部 経済学科 3年生
Tsubasa Izuta
出田 翼さん

スタッフの視点から

受講している立場でもある私が、この授業で学んだことは2つあります。一つは行動力——自分自身で動かないと何も進まないということです。そしてもう一つは観よりも年齢が高い人たちの接し方です。これから、もっとこれらの力を成長させていきたいと思っています。(上原 沙斗子)

STUDY PLUS+



▼プロジェクト
商店街
アートプラン
街の賑わいを取り戻していくために
自分たちの感性を發揮しよう。



商店街が持つ文化装置としての側面に着目し、活性化の方向性を探っていくプロジェクト科目。昨年度の秋学期は「茨木阪急本通商店街」を対象とし、実際に出向いて観察・ヒアリングなどの現地調査を行いながら、魅力を再発見したうえで、今後のあり方を成果としてまとめた。意匠や景観、地域振興や社会問題、取材や企画など、さまざまな分野への興味が学びに活かせる科目となっている。(記事の内容は2014年度に開講されたものです)

教員 × 学生 | ここが面白い!



今取り組んでいるのは、「限定のメモリアルウォッチを販売するショップオーナー」と「限定品を手に入れたいコレクター」との売買交渉、という設定。学生たちは売り手または買い手に分かれ、交渉に臨みますが、単純な値引き交渉や巧みな話術だけでは上手くいきません。

コレクター側の場合なら、「限定品なのですぐに手に入れたいのか、待ってでも中間の分まで個数を優先すべきか」「そもそもその時計は本物なのか、偽物なのか」等々、グループで話し合い、できるだけ多くのケースを想定しながら、対策を練っていきます。



弁護士の
先生も
授業に参加

各グループ内での議論が進んでいくと、視野が狭くなっていたり、考え方が偏ったりして議論が硬直していくことがあります。紛争に巻き込まれて困り果て、弁護士に相談に来る方にも似たことがあります。そんな時は、発想を和らげるような投げかけや、別の角度からの問いかけをして、話を活性化させます。

社会学部 社会学科 4年生
Miharu Imai
今井 実春さん



まずは自分で考えることが大切なんです、グループメンバー同士でいろんな意見を出し合うと、思いもよらなかった発見もありますし、多くのアイデア・選択肢の中から練っていくほうが、より良い交渉案になりますね。



アークス総合法律事務所
Toshiaki Matsuki
松木 俊明さん

心理学部 心理学科
卒業生(取材時4年生)
Yuuri Tasaki
田崎 優里さん



各自が考えた案をもとに、対立する相手と交渉しますが、特に正解はありません。一見、損得や勝ち負けが気になりますが、それよりも交渉後の関係性が大事です。また会いたいか、二度と会わないか。互いの意図やプロセスを開示しながら、どうすればより信頼できる関係につながるのかを検証していきます。



毎回授業に出るたびに新たな視点や考え方が見つかるので、楽しいです。また、ゲスト講師として社会人の方に参加いただける回もあるのですが、就かれている職業なりのもの見方や意見に触れられるのも勉強になりますね。



心理学部 心理学科 2年生
Moeka Sawada
澤田 萌花さん



基盤教育機構
Masonori Tagami
田上 正範 准教授

スタッフの視点から

課題に対して、グループ全員で意見を出し合い、交渉の筋道を立てていく。そんな授業に皆が頭を悩ませながらも、非常に楽しそうにしていたのが印象的でした。互いに思った事をぶつけ合い、一緒に考えるという作業は、私たち学生の将来に役立つ力にもなると感じました。(壽崎 達也)

STUDY PLUS+



交渉学入門

▼表現コミュニケーション
信頼関係を築きながら
合意するための社会的スキルを養う。



利害関係や対立構造にあるシチュエーションで、交渉によって課題・障壁を乗り越えながらいかに中長期的な信頼関係を築けるか、といったケーススタディを通して、社会的スキルとして欠かせない「コミュニケーション力」の向上を図っていく。授業形態も、個人ワークだけでなく、ペアワークやグループディスカッション、ロールプレイなどさまざまな方法で行われており、交渉までの過程で学べることも多い。(記事の内容は2014年度に開講されたものです)

教員 × 学生 | ここが面白い!



行き先はテーマによって変わります。「自然環境」を知るために大学の裏山を探索したり、「地理的環境」を知るために府道「茨木亀岡線」を辿ったり。「歴史的環境」を知るために安威神社にも行きましたね。今回は、地元の「住民生活」を知るために、大学から徒歩約15分の『北茨木名店街』を訪ねました。



学外へ出掛ける、というスタイルの授業はこれまで経験したことがなかったので、とても新鮮ですね。履修時の予想以上に、とにかく“歩く”授業ですが、この日はほんとうに寒かったので、覚悟と気合が必要でした。



経営学部
マーケティング学科 2年生
Katsunari Kashihara
柏原 勝成さん



今回資料として用意したのは、大学から名店街までの経路を含む地図と、1992年と1997年の名店街のエリアマップ。現地の状況と合わせてそれを見ると、今もある店と変わっている店なども分かり、街の変遷を知ることができます。

現地に着くと、名店街のすぐ裏手には2000年に開業したというショッピングセンターが見えていました。当然その影響はあるだろうなあと容易に想像できましたね。人のつながりにも影響するのかと考えると、複雑な心境になります。



経営学部 経営学科 2年生
Yusaku Takahata
高畑 雄咲さん



この授業では、自分の目で見てみるのが大切なんだ、ということを伝えたいんです。知識がなくても、現地に行って現物を見れば何かしらの発見があり、そこから何かを感じ、考えることができますから。教室で知識を得るのはまた違った、新たな学び方のきっかけにもらえると思います。



スクールバスを使って通学しているため、大学近辺をほとんど知らないまま過ごしてきたので、この授業を履修して良かったですね。自分の入学した大学について知ることにもつながるので、1年生には特におすすめです。皆で歩くので、友達もできやすいですよ。



国際教養学部
Shinsuke Minamide
南出 眞助教授



スタッフの視点から

追大からアルプラザ近くの商店街へ。震えるほど寒い日でしたが、地図を片手に楽しそうに歩く南出先生と学生たちが印象的でした。歩き、見て、聞いて、考える。教室で受ける講義ではなく、実際に自分たちの足で行動し体験するからこそこの“学び”がこの授業のおもしろさだと思います。(木下 由純)

STUDY PLUS+



▼ 教養ゼミ

追大周辺を歩き、
見て、聞いて、考える
地図と現地から学ぶ
フィールドワーク入門。



追大のある茨木・安威を中心に「自然環境」「地理的環境」「歴史的環境」「住民生活」「事業所・機関」などの切り口からフィールドワークし、考察していくゼミナール科目。大学が、自然環境と共にあり、地域社会に根ざした場所であることを理解するうえで、もってこいの科目となっている。地図を手に、周辺エリアを歩きながら行われる授業であるため、梅雨のない秋学期に開講されている。
(記事の内容は2014年度に開講されたものです。)